

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

**特許第3765372号
(P3765372)**

(45) 発行日 平成18年4月12日(2006. 4. 12)

(24) 登録日 平成18年2月3日(2006. 2. 3)

(51) Int. Cl.

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

F I

A 6 3 F 7/02 3 2 1 B

A 6 3 F 7/02 3 1 O Z

請求項の数 3 (全 7 頁)

(21) 出願番号	特願平11-339259	(73) 特許権者	598098526
(22) 出願日	平成11年11月30日(1999.11.30)		アルゼ株式会社
(65) 公開番号	特開2001-149597(P2001-149597A)		東京都江東区有明3丁目1番地25
(43) 公開日	平成13年6月5日(2001.6.5)	(74) 代理人	100097984
審査請求日	平成14年3月25日(2002.3.25)		弁理士 川野 宏
		(72) 発明者	田中 浅夫
			東京都江東区有明3-1-25
		(72) 発明者	青木 英介
			東京都江東区有明3-1-25
		審査官	瀬津 太郎

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 遊技機

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

複数の入賞口を有する遊技盤を備え、該遊技盤の表面に弾発された遊技球が前記入賞口に入賞した場合に、遊技者に利益を付与する遊技機において、

前記遊技盤の背面側を覆う蓋部材を設け、

該蓋部材の前面側に、前記入賞口に入賞して前記遊技盤の背面側に導かれた遊技球を案内するための通路部材を該蓋部材と一体に設ける一方、前記遊技盤の背面に、前記通路部材により形成される球通路のほぼ中央に沿って、リブを突出して設けたことを特徴とする遊技機。

【請求項2】

前記リブの突出量が前記遊技盤の背面側に設けられた障害釘を植設するためのボス部の突出量とほぼ同様であることを特徴とする請求項1記載の遊技機。

【請求項3】

前記リブは、前記ボス部に一体的に設けられたことを特徴とする請求項2記載の遊技機。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、遊技盤の表面に弾発された遊技球が入賞口に入賞した場合に、遊技者に利益を付与する遊技機に関する。

【0002】

【従来の技術】

従来より、この種の遊技機としてパチンコ機が知られている。

従来のパチンコ機は、遊技盤の表面に複数の入賞口を設け、遊技盤の表面に弾発された遊技球が入賞口に入賞すると、所定数の賞球を払い出すようになっている。

【0003】

ところで、入賞口に入賞した遊技球は、遊技盤の背面側に導いてパチンコ機外に排出する必要がある。このため、遊技盤の背面には、入賞口に入賞した遊技球を導くための球通路が形成されている。このような球通路は、樋構造を備えた通路部材により構成され、この通路部材は、遊技盤の背面側を覆う蓋部材により遊技盤に取り付けられている。

10

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上述した従来のパチンコ機では、球通路を構成するための通路部材が蓋部材と別体に形成されているため、部品点数が多くなって組み付け作業が面倒であるとともに、製造コストが上昇するという問題があった。

【0005】

また、近年、プラスチックで形成された遊技盤が主流となっており、このような遊技盤では、その背面側に障害釘等を支持するためのボス部が突出して形成されている。このため、遊技盤の背面側に球通路を形成しようとした場合に、球通路内の随所にボス部が突出することとなる。

20

【0006】

このように、遊技盤の背面側にボス部を突出させないためには、遊技盤を厚く形成すればよいが、プラスチック製の遊技盤の場合には、ボス部を含めた厚さとなるように遊技盤を成型することは技術的に困難である。

【0007】

また、ボス部の突出量を考慮して球通路の奥行きを確保できるように通路部材を形成した場合には、ボス部が存在する部分と存在しない部分で球通路の奥行きが異なることとなり、球通路内を通過する遊技球がボス部に衝突して跳ね返り、ボス部や通路部材が損傷するおそれがある。また、球通路内に遊技球が詰まるおそれもあり、遊技球を円滑に導くことが難しくなる。

30

【0008】

本発明は、上述した事情に鑑み提案されたもので、部品点数を削減することにより、製造が容易で製造コストを低減でき、さらに遊技球を円滑に導くことできる球通路を備えた遊技機を提供することを目的とする。

【0009】

【課題を解決するための手段】

本発明に係る遊技機は、上述した目的を達成するため、以下の特徴点を備えている。

すなわち、請求項1記載の本発明に係る遊技機は、複数の入賞口を有する遊技盤を備え、該遊技盤の表面に弾発された遊技球が前記入賞口に入賞した場合に、遊技者に利益を付与する遊技機において、

40

前記遊技盤の背面側を覆う蓋部材を設け、

該蓋部材の前面側に、前記入賞口に入賞して前記遊技盤の背面側に導かれた遊技球を案内するための通路部材を該蓋部材と一体に設ける一方、前記遊技盤の背面に、前記通路部材により形成される球通路のほぼ中央に沿って、リブを突出して設けたことを特徴とするものである。

【0010】

また、請求項2記載の本発明に係る遊技機は、前記請求項1記載の発明に係る遊技機の特徴点に加えて、

前記リブの突出量が前記遊技盤の背面側に設けられた障害釘を植設するためのボス部の突出量とほぼ同様であることを特徴とするものである。

50

【0011】

また、請求項3記載の本発明に係る遊技機は、前記請求項2記載の発明に係る遊技機の特徴点に加えて、

前記リブは、前記ボス部に一体的に設けられたことを特徴とするものである。

【0012】

ここで、蓋部材および通路部材を形成する部材は、例えば、ABS樹脂、ポリカーボネート、アクリル、ポリスチレン、ポリメチルメタクリレート等からなる。

【0013】

【発明の実施の形態】

以下、図面に基づいて、本発明に係る遊技機の実施形態の一例を説明する。なお、以下に説明する実施形態では、代表的な遊技機としてパチンコ機を例にとって説明を行う。 10

【0014】

<パチンコ機>

図3～5は、本発明の一実施形態に係るパチンコ機に使用される遊技盤を示すもので、図3は、遊技盤の正面図、図4は、蓋部材を取り付けた遊技盤の背面図、図5は、蓋部材を取り付けた遊技盤の右側面図である。

【0015】

本発明の一実施形態に係るパチンコ機に使用される遊技盤1は、図3に示すように、その前面に、ガイドレール2で囲まれた略円形の遊技部3を設けている。また、遊技部3内には、複数の障害釘4や風車5等からなる障害部材と、一般入賞口6、始動口7、大入賞口8等の複数の入賞口と、遊技部3内に発射されていずれの入賞口にも入賞しなかった遊技球を遊技盤1の背面側に導くためのアウト口9と、内部に装飾ランプ等を配設した装飾部材10を設けている。また、図中、破線で示す領域には透明な窓部材11が取り付けられており、遊技盤1の背面側に取り付けられた液晶表示装置12の画面が臨むようになっている。 20

【0016】

遊技盤1の背面側には、図4、5に示すように、透明領域に臨むように液晶表示装置12を取り付け、液晶表示装置12の下方には、複数の入賞口に臨むように蓋部材13を取り付けている。

【0017】

<蓋部材>

上記蓋部材13について、図1を用いて説明する。図1は、蓋部材13の正面図である。蓋部材13は、図1に示すように、遊技盤1に対向する前面側が開放した箱状の部材からなる。

蓋部材13の内面側には、遊技盤1に向かって壁状の通路部材14を複数箇所 to 立設することにより、遊技盤1に設けた入賞口の背面側出口と、遊技球をパチンコ機外に排出するための球排出口15とを連通するための複数の球通路16を設けている。

【0018】

この球通路16は、各入賞口の背面側出口に対向して設けられた上流側入口16aから、蓋部材13の下側に設けられた球排出口15に向かって屈曲して形成されている。また、各入賞口からの球通路16は、合流しながら下流側に向かい、最終的に、蓋部材13の下側に設けられた球排出口15に集合している。 40

【0019】

蓋部材13および通路部材14は、ABS樹脂、ポリカーボネート、アクリル、ポリスチレン、ポリメチルメタクリレート等のように透光性を有するプラスチックにより一体的に成型される。このように、蓋部材13および通路部材14を一体的に成型することにより、部品点数を削減することができる。また、透光性を有するプラスチックにより蓋部材13および通路部材14を形成することにより、パチンコ機の背面側から、球通路16内を通過する遊技球を確認することができ、万が一球詰まり等が発生した場合であっても、球詰まりが発生した箇所を容易に確認することができる。 50

【0020】

また、球通路16内には、各入賞口に入賞した遊技球を検出するための遊技球検知センサ17を取り付けている。なお、遊技球検知センサ17を取り付ける位置は、図1に示す位置には限られず、遊技球の検出態様に応じて球通路16の他の位置に取り付けてもよい。

【0021】

<遊技盤の背面>

上記遊技盤1の背面側の構造について、図2を用いて説明する。図2は、遊技盤1の背面図である。なお、図2に示す遊技盤1は、図3～5に示す遊技盤1と若干形状が異なっているが、その機能等は同様である。

【0022】

遊技盤1の背面側には、液晶表示装置12を取り付ける領域に、透明なプラスチックからなる窓部材11を配設し、複数の入賞口や装飾部材10を取り付ける領域に、それぞれ挿通孔18を開設している。

【0023】

また、蓋部材13を取り付ける領域には、通路部材14により構成される球通路16のほぼ中央に沿って、リブ19を突出して設けている。このリブ19は、遊技盤1の背面側に設けられた障害釘4を植設するためのボス部（図示せず）により代用してもよいし、ボス部と一体的に設けてもよい。

【0024】

リブ19の突出量は、ボス部の突出量とほぼ同様となっている。このようにリブ19を形成することにより、ボス部の有無にかかわらず、球通路16の全経路において球通路16の奥行きが同一となり、遊技球を円滑に通過させることができる。

【0025】

なお、上述した実施形態では、代表的な遊技機としてパチンコ機を例にとって説明したが、本発明は、パチスロ遊技機、アレンジボール遊技機、雀球遊技機等の他の遊技機にも応用することができる。

【0026】

【発明の効果】

本発明に係る遊技機は、上述した構成を有するので、以下に示すような効果を奏する。
請求項1記載の本発明に係る遊技機では、遊技盤の背面側に取り付ける蓋部材の前面側に、入賞口に入賞して遊技盤の背面側に導かれた遊技球を案内するための通路部材を蓋部材と一体に設けている。
したがって、従来の遊技機のように蓋部材と通路部材を別体として形成する必要がなく、部品点数が削減することにより、組み付け作業が容易となるとともに、製造コストを低減することができる。

【0027】

請求項2記載の本発明に係る遊技機では、リブの突出量が前記遊技盤の背面側に設けられた障害釘を植設するためのボス部の突出量とほぼ同様に設けられている。

したがって、球通路の全経路にわたって奥行きが同一となり、球通路内を通過する遊技球がボス部や通路部材に衝突することがなく、遊技盤および通路部材の損傷を防止することができる。また、球通路内に遊技球が詰まることがなく、遊技球を円滑に導くことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施形態に係るパチンコ機に使用される蓋部材の正面図

【図2】本発明の実施形態に係るパチンコ機に使用される遊技盤の背面図

【図3】本発明の実施形態に係るパチンコ機に使用される遊技盤の正面図

【図4】本発明の実施形態に係るパチンコ機に使用される蓋部材を取り付けた遊技盤の背面図

【図5】本発明の実施形態に係るパチンコ機に使用される蓋部材を取り付けた遊技盤の右側面図

10

20

30

40

50

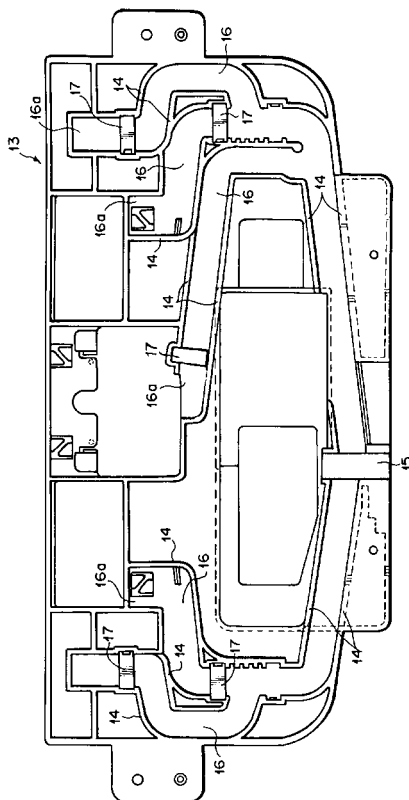
【符号の説明】

- 1 遊技盤
- 2 ガイドレール
- 3 遊技部
- 4 障害釘
- 5 風車
- 6 一般入賞口
- 7 始動口
- 8 大入賞口
- 9 アウト口
- 10 装飾部材
- 11 窓部材
- 12 液晶表示装置
- 13 蓋部材
- 14 通路部材
- 15 球排出口
- 16 球通路
- 16a 上流側入口
- 17 遊技球検知センサ
- 18 挿通孔
- 19 リブ

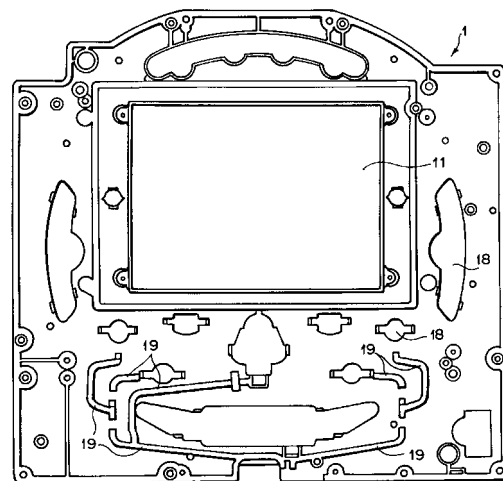
10

20

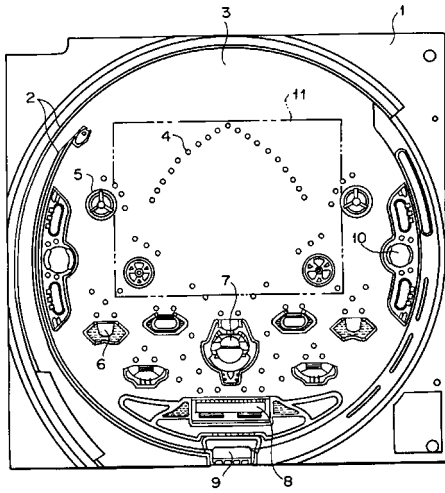
【図 1】



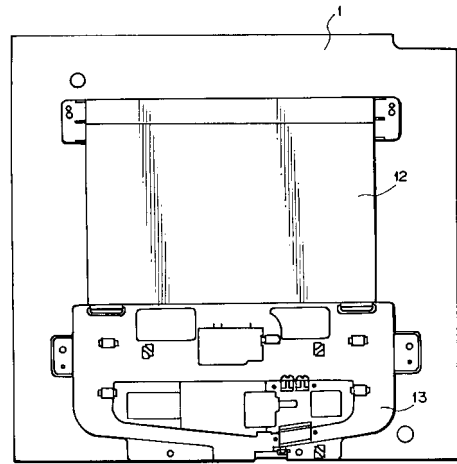
【図 2】



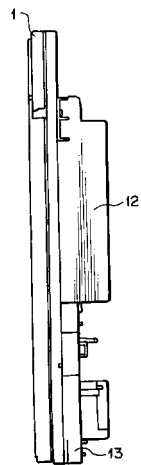
【図 3】



【図 4】



【図 5】



フロントページの続き

- (56)参考文献 特開平11-300003 (JP, A)
特開平09-075526 (JP, A)
特開平10-337357 (JP, A)
特開平11-099244 (JP, A)
特開平11-151350 (JP, A)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
A63F 7/02